

\*本コーナーでは、9～12月の年内に試験が実施され、合否が決まること多い総合型選抜（旧AO入試）と学校推薦型選抜を、「年内入試」と総称しています。年内入試支援をテーマとしたVIEWnext高校版 2023年8月号・特集はこちら▶▶



## 生徒の可能性を引き出す 新進路選択支援

年内入試（\*）の募集枠の拡大など、大学入試環境が大きく変化している中で、生徒がより自分に合った進路を選択できるよう、生徒の内面や可能性を引き出すことが一層重要になってきている。そうした支援においては、学校や教師には何が求められるのか、実践事例を通じて考える。

# ビジョンの「人物多様性」に基づき、個性を尊重した支援を追求

## 北海道・私立札幌新陽高校

### 同校が目指した生徒の行動変容、そのための教師の支援

生徒

BEFORE



成功体験が乏しいため、自己肯定感が低く、何事も諦めやすい生徒が少なくなかった。

教師の支援

- 生徒が視野を広げられるよう、1年次に自分をj知る活動、2年次に体験的な学びを重点的に実施。
- 連携企業や教師が持つネットワークを活用して、生徒一人ひとりに多様な選択肢を提示。

生徒

AFTER



目的意識を持って自分の進路を選択する生徒が増加。大学合格者数は5年間で3倍に。

### 学習者中心の学習設計と するため、単位制を導入

北海道・私立札幌新陽高校は近年、「本気で挑戦する人の母校」をスローガンに掲げ、生徒の興味・関心や強みを引き出す教育活動を行ってきた。そうした支援によって、目的意識を持って自分の進路を選択する生徒が増加。俳優やプロスポーツ選手などの道に進む生徒や、年内入試に挑む生徒も増え、大学合格者数はこの5年間で3倍となった。キャリア教育担当の植田祐矢先生は、生徒への思いをこう語る。

「生徒の多くは、入学時は学力が低く、成功体験やリーダー経験が乏しいため、自分に自信を持っていません。そんな生徒も自分の価値を証明したいと思っています。挑戦の機会を用意し、それぞれに寄り添った支援をすれば、必ず力を発揮すると思っていました」

2022年度には、ビジョンの「人物多様性」に基づき、単位制を導入。生徒個々に異なる個性を持つことを前提として、「個別最適な学び」を追求している。グラデュエーション・ポリシーの1つ「自ら学習を設計し、学び続ける姿勢」の育成に向け、生徒が自分の関心や進路に応じて科目を選び、自分で時間割を組めるようにした。3

年次の必修科目を減らし、生徒が自主活動に自由に挑戦できるようにするねらいもあった。さらに、同年度からは4人1組を基本とする協同的な学びも実施。生徒が自分の考えを述べる場面をどの科目にも設けるようにした。また、クラス制をやめ、メンター制を導入。教師が1人あたり約20人の生徒を受け持ち、面談などを行っている。

### 評価対象を生徒が自ら 決める「わがまま通信簿」

進路支援のテーマは、1年次は「自分をj知る」、2年次は「本気で挑戦」、3年次は「自主創造」だ（図1）。赤司あかしかし展子校長は、その意図をこう説明する。

「生徒は、自分が知っている範囲内ではしか進路を選ばません。そこで、生徒が視野を広げられるよう、1・2年次は自分の適性に気づいたり、ロールモデルを見つけたりする活動を重点的に行っています」

1年次の特徴的な活動の1つが、「わがまま通信簿」（図2）だ。見取ってほしい点などを生徒自身が記入するもので、教師は面談の材料にしている。

「できないことを指摘するのではなく、できていることを認め、『自主創造』へと進んでいけるような見取りと声か

図1 各学年の進路支援のテーマと活動内容

### 1年次 自分を知る

自分を語れるようになる（好きなことや得意なことなど）  
 頑張ったことや克服したこと、今後の課題などを、eポートフォリオに記録。「わがまま通信簿」には、生徒自身が認めてほしいことを書く。教師はそれらを踏まえて生徒と対話し、気づきを促す。それらの活動は2年次以降も継続。

### 2年次 本気で挑戦

何かに本気で挑戦した、挑戦中、挑戦したいことが見つかった大学訪問またはインターンシップを選択。生徒から訪問したい大学やインターンシップ先が挙げられたら、可能な限り訪問希望を実現させる。生徒が職業人3人と語り合う「ヒューマンライブラリー」なども実施。

### 3年次 自主創造

今後の進路が自己決定できる  
 空き時間を活用し、各自の進路や興味・関心に応じて自分を高める活動に、主体的に取り組む。卒業時の進路決定をゴールとせず、10年後、20年後のキャリアをデザインできるように生徒一人ひとりをサポート。

図2 「わがまま通信簿」(記入例)

2023年度	
①4～6月を振り返って	充実していた
②そう思った理由	
友達がたくさんできたし、エスコンのボランティアに参加したし、部活動に3つ入部した。そのほかにも、イエローハウスのTシャツプロジェクトに参加したり、広報ポスターのモデルもやらせてもらえたりと、たくさんのごことに挑戦できたから。	
★7～9月 見取ってほしいテーマ（観点）	
どんな活動に参加しているか。	
★評価材料	
態度。活動内容。	
★どのような自分になっていたいか（到達目標）	
たくさんのごことに挑戦していても、計画的で詰め込みすぎでない自分。	
★そのためにやること（計画）	
スケジュール管理をしっかり行い、todoリストを今のうちから作っておく。	

「わがまま通信簿」は3か月おきに生徒が記入。3か月間を振り返って自分が頑張ったことをメタ認知するとともに、それを踏まえて、次の3か月間の目標を立て、その実現に向けた行動計画を立てる。自分の得意なことやこだわりなどを生徒にアピールさせることで、自己肯定感の向上を図るねらいがある。教師にとっては生徒を多面的に評価する機会となっている。京都大学の塩瀬隆之准教授のアドバイスを基に始めた取り組みだ。

※図1・2とも、学校資料を基に編集部で作成。

お  
勧  
め  
の  
分  
掌

管  
理  
職

教  
務  
担  
当

進  
路  
担  
当

担  
任



左から/植田祐矢（メンター長、キャリア教育担当）、赤司展子（校長）、星裕也（教務部）

#### 学校概要

- 設立 1958（昭和33）年
- 形態 全日制/普通科/共学
- 生徒数 1学年約280人
- 2022年度卒業生進路実績 国公立大は、富山大、札幌市立大、芸術文化観光専門職大に3人が合格。私立大は、札幌国際大、札幌大、北星学園大、北海学園大、北海道医療大、国士館大、実践女子大、東邦大、流通経済大、中京大などに延べ116人が合格。短大・専門学校進学62人。就職38人。

2年次は、社会を知る観点から、大  
 学訪問か企業インターンシップのい  
 ずれかを選択して活動する。

### 時宜を得た支援が 生徒の心に火をつける

「心をかけています」（植田先生）  
 生徒は当初、「予習・復習を頑張った」「テストの点がよかった」などと、学習のことがばかりを書いていたが、教師が学校行事や部活動、日々の生活など、学習以外のことも書いてよいと伝え、できていることを褒め続けると、次第に学習以外での成長にも目を向けて書くようになった。どんなことでも評価してもらえると安心感が生徒の自己肯定感を高め、行動変容を促している。

期待している。「本校での学びで自信が持てたと言える生徒を送り出していきたい」と、赤司校長は抱負を語る。

4月には、基礎力診断テストと適性検査を同日に実施。ウェブで解答結果が即日生徒に返却されることから導入した（\*）。教務部の星裕也先生はそのねらいを次のように語る。  
 「記憶が鮮明なうちにテストの結果を知ることができると、生徒はすぐに復習に取り組みました。適性検査では今まで見えていなかった資質が評価され、生徒は自己肯定感を高めていました。生徒の心に火をつけるには、タイミングを逃さずに情報を提供することが大切なのだと思えました」  
 3年次は、資格取得や進学・留学準備など、自分を高める「自主創造」を

\* 自分の強みを知り、自分軸を作るベネッセの進路学習教材である「進路達成プログラム」と教科テスト（基礎力診断テスト、スタディーサポート）を同日に実施する「進路・学習同年版」について、オンライン説明会を2023年10月から12月にかけて開催します。  
<https://appdl.fleekdrive.com/pl/AXsuolfHsAwdz6wehFzWdk7Rqk86boP2> または、右の2次元コードからアクセスし、詳細をご確認ください。

